

第3回 鹿島港カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画作成ワーキンググループ

議事概要

会議概要

日時：令和3年9月29日(火) 15:00~16:00

開催形式：Web 会議

議事内容

○事務局から、鹿島港におけるCNP形成イメージ案(2050年の将来像)を含む「鹿島港CNP形成計画(原案)」を提示し、構成員から了承を得た。

○各企業におけるご意見等

- ・メタネーションにより合成メタンを製造してカーボンニュートラル(CN)なガスを供給する等、既存インフラの最大限活用しながらCN実現に取り組みたい。
- ・洋上風力は着床式とともに浮体式も視野に入れて取り組んでいきたい。洋上風力発電設備の建設や維持管理には陸上エリアが必要になるため、港湾施設の活用も重要。洋上風力設備の組立と産業の拠点化を目指すべき。
- ・水素や燃料アンモニア混焼の技術開発に取り組んでいる。サプライチェーンの構築、再エネやCO₂フリー電力の供給によりCN実現に取り組みたい。
- ・製鉄における水素還元技術の開発を進めている。実現のためには水素が大量に必要となるが、今回、原案では、水素供給の土壌があることが示されており、2050年のCNP形成イメージ案について異存はない。
- ・プラスチックの再生利用に取り組んでいるため、今後は規模拡大に繋げていきたい。化学反応で発生するCO₂の回収、水素と結合処理したオレフィン生成の技術開発が必要。
- ・水素・燃料アンモニアの輸入・移入拠点となることが描かれていることはありがたい。他方で、企業が燃料利用する際は、港からコンビナートへの供給インフラについても検討が必要で、県・国・企業で共通イメージを持つことが必要。
- ・イニシャルコスト、ランニングコストの採算性が課題。炭素税の動きも企業活動に影響する。
- ・脱炭素だけでなく、これまで行ってきた省エネの追求についても限界まで行っていきたい。
- ・物流のモーダルシフト(臨海鉄道の活用含む)について全体での議論が必要。
- ・荷役機械における燃料転換について、荷役機械・車両メーカーと協力して脱炭素化に取り組む。船舶への陸上電力供給の早期実現に期待する。
- ・施設規模の算定にあたり、県内の茨城港との連携、首都圏との関係も整理する必要がある。
- ・洋上風力については、鹿島港内、千葉県銚子市沖だけでなく、県内海域での次の展開も検討が必要。

以上